

「保育の中の子ども声」

～自分の声が聴き取られる権利と正當に評価される権利～

講師：加藤 繁美氏

平成30年11月22日(木) 18:30～20:30

参加者 234人 (公立51 ・私立183) アンケート集計 173枚

<今後の保育に活かせる>

- ・子どもに共感することに大切さを学んだ。明日からの子ども達とのかかわりが楽しみ。(多数)
- ・カエルの話が印象的。子どもの気持ちに寄り添うと新しい発見があるかも。明日からの保育が楽しみ。
- ・あっという間の時間だった。これからの保育に活かしたい。(多数)
- ・子どもがドキドキする場を摘み取っているかも。明日が祝日なのが惜しい。
- ・子どもにとってワクワク、ドキドキできる保育を目指したい。
- ・受け止め方次第で子どもの姿が変わる、と学んだ。自分の関わり方を大切にしたい。
- ・学んだことを園で共有して保育に活かしていきたい。子どもの思いをしっかりと受け止めたい。
- ・根気強くがんばっていききたい。(2)
- ・ありのままを受け止め、切り返す大切さ。明日につなげたい。
- ・日々、喜びを感じているが、さらにわくわくしてきた。
- ・子どもの思いを考えながら関わっているが、より意識したいと思った。
- ・質の向上、よりよい保育を行えるよう明日からに活かしたい。
- ・子どもの声には明日の保育のヒントがあることを意識して、子どもの声を聞いていききたい。(3)
- ・明日の姿、成長を考えながら関わっていききたいと思った。
- ・私たちのすべきことはたくさんあると感じた。明日につなげていききたい。
- ・明日から子どもに寄り添った保育がしたい。記録をとっていききたい。
- ・頭でっかちにならずに実践に活かしたい。
- ・子どもの声に丁寧に耳を傾け、心を使う保育をしていききたい。
- ・子どもの声を表面だけでなく本当に思っていることを聞くということが大切だと思った。
- ・子どもの心を読むことが大切だと思った。
- ・職員同士、事例をふまえた話し合いをしたい。
- ・日々の保育を考えながら学んだ。すぐ実践したい、子どもと関わりたい、という気持ちになった。
- ・事例が経験と重なることがあり、フィードバックできた。明日の保育に活かしたい。
- ・本音を受け止め、切り返しているが、うまくいかないこともある。第二の自我を育てられるよう関わっていく。
- ・記録の大切さがわかった。園内研修に活かしたい。
- ・建前と感覚、今感じていることだった。じっくり考える時間がなく、翌日になってしまうが、先生の話の念頭に置き、子どもに接していきたい。
- ・「子どもの逸脱に価値を見出す」ことに驚いたが、なるほどと思った。クラスのそういう子どもを見つめ直したい。

- ・トラブルがあったらまたか、と思わず、背景を考えながら向き合っていきたいと思った。
- ・もう一度子どもとの関わりを考えていきたい。
- ・保育の中で子どもが最も生き生きしているのは活動時間よりも自由遊びの時間、あるいは逸脱している時だと感じていたので保育者には存在価値がないのではと悲観的になっていたが、「子どもの主体性を尊重したい」「保育者の言うことを聞いて活動に集中して欲しい」という二つの思いが交錯しているから生じる悩みであることに気づいた。
- ・見えていないことに目を向ける。忘れていたことを改めて思い出す研修だった。

<自分の保育の見直し、振り返りができた>

- ・毎日の保育の見直しができる。事例と同じことを言ってしまう時があると思った。(多数)
- ・「かえる」の事例と同じようなことがあった。子どもの考えや想像力、遊びをダメにしてしまうことだと改めて感じた。共感する心を考えていきたい。
- ・振り返りができた。子どもの言葉を受け止め、第二の自我を育てる保育をより意識したい。(多数)
- ・子どもの声が聞けているか、日々、振り返って保育したいと思った。
- ・自分の保育を見直す良い機会になった。(4)
- ・子どもとの向き合い方について考えることができた。
- ・実践を通して保育を見直していきたいと思った。本当の気持ちを聞き取ることが大切にしたい。
- ・直感的、自分の好みで関わり方を変えている、と思った。
- ・日々を振り返り、明日の保育に活かせるよう実践していこうと思った。
- ・自分が子どもの頃、聞いてもらえるのを待っていた。今、自分はできているだろうか？
- ・研修を参考によりよい保育をしていきたい。職場の人も見直しをしてより良い保育につなげてほしい。
- ・一日を振り返る時間を持つと思った。どこか子どもを自分の思い通りにしているかも。
- ・普段の保育を見直そうと思った。(多数)
- ・集団保育と主体的保育の考え方の矛盾がある、と実際の保育を振り返って感じる。
- ・記録は難しいが、保育の質の向上や振り返りには必要。事例と同じことをしている、と反省。
- ・余裕がなく、感情的になりがち。子どもの声にもっと耳を傾けなければ。
- ・振り返ると反省ばかり。プロとしてゆとりを持ち、子どもの力を引き出せる人になりたい。
- ・考え方や対応をもう一度、見直す必要があると感じた。(多数)
- ・子ども主体の保育を考えたい。保育を理論と繋げる作業をしていきたい。
- ・記録を通して自分の感覚と理論を結びつけて振り返りをしたいと思った。
- ・日々のことを文字にして考えてみると、その時とは異なる見方もでき大切なことに気づくこともある。
- ・理論と本音が異なっている、と実感。忙しいとその子や行動を否定していた。考え方を変えて、子どもに寄り添える人にならなければ。
- ・子どもにどう接することが正解なのか悩む。子どもの思いや声に耳を傾けることをもっと大切にしたい。
- ・子どもの逸脱を魅力的に思いたい。記録、分析、実践を繰り返し解決していきたい。

<事例があり、わかりやすかった> (多数)

- ・具体的に事例を通して理論を伝えていただき、とてもわかりやすかった。
- ・つい怒ってしまいがち。子どもの思いを考え、予想をして楽しんでいきたい。
- ・わかりやすく、そしておもしろく良い話が聞けた。
- ・わかる、共感できることが多かった。日々、どうすればよいか考える。保育に活かしたい。
- ・事例の解説がわかりやすかった。参考になった。

- ・実践の話が勉強になった。
- ・楽しくわかりやすい研修だった。モチベーションがアップした。

<ポイントがわかった>

- ・子どもの心の変化、対する大人の関わり方のポイントがわかった。ユーモアあり、楽しかった。
- ・日誌で振り返るときに資質を高めるためのポイントとして頭に残して、活かしていきたい。
- ・受け止める、切り返す がうまくできるようになりたい。好奇心を大切にしたい。
- ・子どもの気持ちに寄り添うことの本当の関わりを教わった。わくわくできるような関わりしたい。
- ・子どもの真の姿、本当の思いを考える時間になった。その思いに応えるための関わり方を学んだ。
- ・子どもたちにとっての“面白い”は日々の生活の中に沢山あふれているのだと実感した。

<反省した>

- ・理論をもっと学ばなければ。短気を直したい。
- ・イライラすることをやめようと思い、保育している。先輩の姿から自分の対応にハッとしたことがあった。保育士の言うとおりに動く子どもの大事なところが育てられないのかも。
- ・どうしてもすぐ怒ってしまう。共感し、応答的に関わっていこうと思った。
- ・今までの経験則や慣れ、感覚で子どもと関わっているのではないかと自分の言動を思い返すことができた。
- ・“気になる子ども”は、つい「何でみんなと同じにできないのだろう」と思ってしまいが、そのような子ほど大切に育てていくべきと聞いて意識が変わった。
- ・先入観、思い込みの保育から見方を変えていきたい。
- ・子どもの主体性を大切にしているつもりでもいつの間にか保育者の都合を押付けているということに改めて気がついた。自分と考えが異なるからといって子どもの行動を否定するのではなく、行動と向き合うことが大切とわかった。

<楽しかった>

- ・本当に楽しいお話だった。若い頃に葛藤したことが今は余裕を持って子どもと関われるようになった。
- ・笑いながらも納得する内容だった。また、先生のお話を聞きたい。
- ・とても楽しく中身の濃い研修だった。直感的理論も大切に、広い心や視野を持ち関わりたいと思った。
- ・保育に活かせる内容でお話も楽しく、あっという間の時間だった。(多数)
- ・話し方が面白く聞きやすく内容が入ってきた。(多数)
- ・あっという間の2時間だった。もっと聴きたい。

<その他>

- ・新たな知識を得ることができた。
- ・迷いをふっきた気がする。
- ・担任と子どものアシストをしていくことが課題。
- ・保育することがワクワクする。
- ・心の叫びと対話をしなければ、と思い悩むこともある。もっと気長にのんびりと関わっていきたい。
- ・3年間でその人をつくる、という言葉が印象的。この3年を大切にしたい。
- ・うなずけることがたくさんあった。若い保育士の成長に役立つ保育、子どもとの関わりを心がけたい。楽しく保育したい。
- ・子どもの顔、場面が思い出された。尊い仕事だと実感した。

- 根気が大切だと感じた。
- 早く子どもたちと触れ合いたい気持ちになった
- 実践の質を高め、記録し、振り返り、理論づけることを日々重ねていきたい。
- 理想と現実を近づける努力が必要だと感じた。
- 初めて加藤先生の研修を受けた。普段私たちが行っていることをもう少し考え直す必要があると感じた。
- 加藤先生の研修は何度か受けている。受けとめと切りかえすことを意識的に実践してきた。保育が何十倍にも楽しくなったことに気づいた。
- 自分の経験が子どもに関わるときに必要なになってくること、保育者の仕事はよい仕事だと改めて感じることができた。

希望講師 研修

「加藤先生のお話しをまた聞きたい」という意見多数（2、3部と続けて聞けると嬉しい等もあり）

植野 美也子先生（家族支援）

大豆生田先生

井桁 容子先生

木村 順先生

OT

ケロボンズ

ムーブメント

発達と遊びの体系的知識

感覚遊び 機能遊び と言われるもの

深い遊びのかかわり方

怪我の対応

感覚総合療法

お便り作成、レイアウトの上手な方法

実践研修

保護者支援